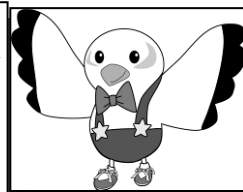


～子供に夢や感動を！～

東京教師養成塾通信

発行日 平成 27 年 8 月 1 日
< 第 4 号 >
発行元 東京都教職員研修センター
研修部教育開発課
電話 03-5802-0318



東京教師養成塾は、関係大学や教師養成指定校、学校経営支援センター、区市町村教育委員会との連携を図り、豊かな人間性と実践的指導力を兼ね備えた人材を、学生の段階から養成しています。今年度で 12 年目を迎え、これまでに約 1,300 名以上の修了生が東京都の教員として活躍しています。

「東京教師養成塾通信」は、東京都教育委員会が設置した東京教師養成塾の活動について広く知っていただくための通信です。

●第 5 回ゼミナール

「単元を通した授業づくり ～単元指導計画の作成から授業実践へ～」

7 月 18 日 (土) に、第 5 回ゼミナール「単元を通した授業づくり～単元指導計画の作成から授業実践へ～」を実施しました。今回は、社会科、理科並びに特別支援学校の目標や指導内容等を理解し、単元指導計画作成の考え方や、指導方法について学ぶことをねらいとしました。

【社会科分科会】

前半の講義では、社会科の目標や学年ごとの指導内容、授業づくりのポイント、評価等について学びました。

後半は、第 5 学年「水産業のさかんな地域」を例に、単元の導入における学習問題の設定の仕方について演習を通して学びました。

【特別支援学校分科会】

前半の講義では、生活単元学習の在り方について学びました。また、各自が作成してきた単元指導計画について発表しました。

後半は、単元指導計画の分析や授業づくりを行い、一つの単元について、全員で検討し、指導案を作成しました。

【理科分科会】

前半の講義では、理科教育の現状や課題を理解し、問題解決の学習過程を意識した単元指導計画の作り方や授業における配慮事項等について学びました。

後半は、第 4 学年「ものの温度と体積」を例に、教授による演示実験を踏まえ、単元の導入の授業づくりについて、演習を通して学びました。



～ 演習の様子 ～



～ 講義の様子 ～

●第 4 回講義

「あなたもわたしも大切な一人

～人権感覚を磨く～

7 月 18 日 (土) に第 4 回講義「あなたもわたしも大切な一人」を実施しました。今回の講義では、一人一人の児童・生徒を大切にしたい教育活動を行う意義を理解するとともに、人権感覚を身に付けることをねらいとしました。

前半は、東京都教職員研修センター研修部教育開発課 執行 純子 統括指導主事が、「見直してみようあなたの人権感覚」と題した講義を行いました。執行 統括指導主事からは、「人権教育プログラム」についての説明がありました。また、アクティビティでは、自らの思い込みに気付いたり、偏見の存在を認識したりすることができました。

後半は、東京女子体育大学 小林 福太郎 教授から、人権を正しく理解することや人権を守るための取組について学びました。人権への正しい理解として、偏見や差別などの人権侵害や東京都人権施策推進指針から人権上の課題についての説明がありました。また、いじめ問題の正しい認識や指導の在り方についても学びました。

< 塾生の感想より >

- ・ 自分が気付かないうちに人のことを傷つけたり、偏見の目で物事を見てしまったりしていることを知り、人権を意識し、自分を律していく大切さを学んだ。
- ・ 無知であることが偏見や差別を生むということから、正しい知識を頭に入れ、伝えていく必要があることを学んだ。

●第 6 回ゼミナール

「授業を磨く①

～公開ゼミナールに向けて～

7 月 25 日 (土) に第 6 回ゼミナール「授業を磨く①～公開ゼミナールに向けて～」を実施しました。

今回のゼミナールでは、特別教育実習での授業や 10 月の公開ゼミナールに向け、塾生が模擬授業を行う際に必要な事項を理解することをねらいとしました。

前半は、児童・生徒の学習意欲を伸ばし、学習効果を高めるために欠くことのできない「児童・生徒の学習状況の把握の仕方」や「評価を生かした指導の在り方」の大切さを学びました。

後半は、言語活動の充実を図るための取組や児童・生徒の言語能力を向上させる方策等について学びました。公開ゼミナールのテーマである言語活動とは何か、言語活動を各教科等で充実させる際のポイントを学びました。

< 塾生の感想より >

- ・ 形成期の課題の一つとして、児童の学習状況の把握と評価が不十分であったことを挙げた。学習指導中の評価方法が、自分の中で曖昧だったこともあり、実践することができなかったからである。本講義では、評価が子供たちのためだけでなく、教師自身のためにも行うものであることを学んだ。評価を指導に生かすことで、授業改善を図ることができることも学んだ。
- ・ 思考力・判断力・表現力等を育むために、言語活動の充実が必要であり、各教科等の中で言語活動を取り入れていくことが重要であることを学んだ。また、国語科における言語活動の充実として、単元を貫く言語活動を適切に位置付けることであると学んだ。

◆見つけ、見渡し、学び続ける◆

東京教師養成塾教授 青木 秀雄

<見つける> — 「子供」を見つめ、そして「自分」を見つめる。

「見つける」とは、毎日刻々と変容する「子供」の様子をリアルタイムで見つめ、どの子に何を指導すればよいか、そして指導している「自分」のスキルはどうだったのかと、自己評価しながら修正を加えるといったPDCAサイクルを指します。PLAN（計画）－DO（実行）－CHECK（評価）－ACTION（改善）のサイクルが教育では重視されます。

<見渡す> — 「木を見て、森を見て、そして土も見る。」

小学校は学級担任制が基本です。学級に在籍する20数名から30数名の児童の集団をいかに掌握していくかが問われます。全体掌握力とは、担任する学級集団のグループ・ダイナミクス（集団力学）を把握して管理していく能力を指します。一人一人の個が複雑に絡み合って作用し合うと、相乗作用から一人一人の個からは想像できない方向に集団の力が働くこともあります。「木を見て、森を見て、そして土も見る」万全の繊細さが求められます。木は一人一人の子供、森は児童集団としての学級、土は家庭や地域を意味します。広い視点から見渡すことができれば、きっといろいろなものが見えてくるはずですよ。

<学び続ける> — 「学ばざる者、教壇に立つべからず」

「学ばざる者、教壇に立つべからず」と言われます。教師の学ぶ姿勢の大切さを示す言葉です。また、このような言葉もあります。「学べば学ぶほど、自分が何も知らなかったことに気付く。気付けば気付くほど、また学びたくなる。」これは、アインシュタインの言葉です。これらの言葉から、心構えとして「学び続けようとする飽くなき姿勢」がいつの時代の教師にも求められていることが分かります。教師にとって「学び続ける」ということは、「子供」を見つめ続け、そして「自分」を見つめ続けることでもあります。

時代が進み、社会情勢が複雑になればなるほど、迎える時代の透明度は当然低くなります。多様な価値観が渦巻く変化多き社会の行く末を見通して、これからの時代に子供たちが自らソフトランディングできる力をどう培うことができるのか、私たち教師に求められていると言っても過言ではありません。

時代の流れを敏感に感じ取りながら、教師の自らに課せられた職能を磨いていき、教師でいる以上はいつまでも学び続けなければならないと思います。そのスタートが養成塾生の期間です。皆さん、教師でいる限りは「もうこれでよし」とするエンドロールは降りてきません。それこそ「学び続ける者でなければ、教壇に立つことは許されない。」のです。塾生同士、互いに励まし合いながら力を付けていきましょう。

◆単元指導計画の作成と本時の授業づくり◆

東京教師養成塾教授 高橋 妃彩子

早いもので入塾してから4か月が経ちました。皆さんの、形成期における教師養成指定校での授業実践はいかがだったでしょうか。始めの頃は、学習指導案どおりに進めることに一生懸命で、一人一人の児童・生徒の様子を捉えることが難しかったとか、本時のねらいに迫れる学習展開にならなかったなどの声が聞かれました。授業実践も回を重ねる度に、上手くいったと感じる機会が増える一方で、自己の課題もはっきりと見えてきたのではないかと思います。

児童・生徒にとって楽しく、充実した授業を展開するには、確かな単元指導計画を作成し、各時間の授業づくりをしっかりと行うことが大切になってきます。「木を見て森を見ず」という言葉があります。これは、事物の部分的なことにこだわり過ぎて、全体や本質を捉えられないことの例えです。授業もこのようなことにならないとも限りません。45分間の学習指導過程を組み、指導に当たっての工夫を考えたとしても、本時は、単元全体から見て、目標を達成させるためのどの部分であるのかを押さえることが必要です。単元全体の目標を達成させるために、一時間一時間の授業があり、そこには、各時の目標があります。そのつながりを意識した積み重ねが、充実した授業を生み出し、児童・生徒の確かな学力の習得に結び付くのです。そこで、今回は、伸長期からの授業に備えるためにも、単元指導計画の各項目に沿ってポイントになることを挙げ、授業づくりの参考にしてほしいと思います。

(1) 単元の目標

学習指導要領の目標や内容、目の前にいる児童・生徒の学習状況に基づいて、単元全体で児童・生徒に身に付けさせたい力を具体的に設定します。指導計画における各授業の本時の目標をきちんと押さえ、意識することが大切です。

(2) 単元の評価規準

単元の指導目標を踏まえ、観点ごとの評価規準を設定します。児童・生徒の学習状況を適切に評価し、指導に生かすためには、具体的な評価規準を設定することが大切です。

(3) 指導観

指導観には、何を、どのように指導するのかという教師の思いが表れるところです。しっかりとした授業計画のためにも、単元観、児童・生徒観、教材観のそれぞれの項目が互いに関連付けられていることが大切です。

(4) 指導計画と評価計画

児童・生徒が見通しをもって学習できるように指導計画を考えます。ここで大事なことは、指導計画と評価計画を一体的に作成し、評価機能を高めることです。授業中の評価活動をきめ細かにを行い、評価したら、次の指導に生かし、指導したら評価するということです。

(5) 指導に当たっての工夫等

上記のような計画を立て、いよいよ本時の授業づくりです。指導目標を達成させるために、いろいろな指導方法を工夫することも教師の楽しみの一つになるように取り組みましょう。何よりも児童・生徒の意欲的に活動する姿が見える展開にしたいものです。